

平成23年度第1回ゼロ・ウェイスト円卓会議議事録

日 時	場 所
平成23年11月14日（月） 15:00～	秋葉3階会議室A
出 席 者	
【メンバー】 宮北・藤本・田中・永野・小里・桑畑・森山・道上・高岡・義松 【事務局】 田畑・岩下・川本・坂本・池崎 【オブザーバー】 遠藤	
議 題	
1 自己紹介 2 ゼロ・ウェイスト円卓会議の推進体制及びこれまでの取組 3 水俣市のごみ処理の現状について 4 一般廃棄物処理基本計画の策定について 5 今年度及び次年度の取組について 6 その他	
議 事 内 容	
・ゼロ・ウェイスト（ZW）の意味は？この名称と円卓会議の内容がしっくりこない。 →意味は生活の中で無駄なものやごみを減らしていこうということ。現在は第3期ゼロ・ウェイスト円卓会議にあたる。円卓会議は、もともとは学園大学のプラットフォームで議論されていたのが発端で、その当時はZWのみだった（第一期）。その後、国から環境モデル都市として認定されるにあたり、ZWをモデルとして他に4つの円卓会議が設立された（第二期）。そして今回、まちづくり研究会の流れで3回目の改編。	
上勝町・大木町・葉山町等全国で活動する自治体と将来一緒にやっていくために敢えてこの名称を使っている。ZWにこうなさいというものはない。生活を変えることでごみが減っていったらいいなという考え。取り組みは何でも良い。円卓会議はざくばらんに意見を言い合う場所。立場は関係なく発言してほしい。	
・推進委員会の役割は？ →委員会がこれをやりなさいということではなく、それぞれの円卓会議で上がってきた提案を有識者のアドバイスをもらいながら吟味して政策及び予算化していくこと。	
・まだまだ分別が十分じゃないと感じる。自分も知らずに混入させているかもしれない。市民に対して再度分別方法をきちんと伝える必要がある。円卓会議についても市報にちょっと載ったのを見ただけで中身がよく伝わらない。広報の必要性を感じる。	

議 事 内 容

・ 2050年までにCO2を50%削減するという高い目標を掲げているが、どの程度達成できているのか。

・ これまで会議を何度も重ねてきたが、そろそろ実行する時期。最近分別が雑になっていると感じる。共働きで時間がない人が増えたのだろうか？

→確かに時間がないし月に一度だから、それを逃したらまた来月。ごみが溜まる。また、燃やすごみと比べてステーションが遠いのも分別が進まない一因と思う。ステーションを増やすことはできないのか？

→経費はかかるが意見は尊重する

・ ここで論議しても仕方ない。個々が自分がどれだけごみを減らしたら処分場がいなくなるかを考えてもらうことが必要。それを分かりやすく伝えることが私達の役目。

・ 茶のみ場をより推進するために、2台で1世帯分の熱量を使用するという自販機を削減してはどうか。

→茶のみ場作業部会でも自販機の調査が検討されている。

・ 全国・熊本県リサイクル率一覧（資料9P）で、1人当たりのごみ処理費が芦北町と比較して高いのは何故か？

→水俣市は事業系ごみが多いからでは？

・ 事業系ごみは処理費を徴収しているのに？

→処理費は組合の歳入となる。水俣市は処理費用を歳出するのみで歳入はない。

・ 歳入含めたデータじゃないと意味がない。次回までに調べて欲しい。

・ 一般廃棄物会計をより生活に密着した形で作成して市民に公表していく必要があるのでは？そのための作業部会をつくって進めていくのがよいのではないか。

→廃棄物の内訳まで含めた資料を作成してもらいたい。

・ 中学校では、250mlの瓶がないために、給食で紙パック入りの牛乳を飲んでいる。瓶入りにできないか？

→250mlの瓶もあるが、田中牛乳には250mlを充填する機械がない。市で機械の導入費用を負担すれば実施できるという話もあったが、そのままになっている。

・ 次回は合同会議前の12月5日（月）15時～。行動計画を作り直すためのワークショップを開催予定。

【宿題】・アンケート（未提出の方）、ごみ処理経費の内訳（日本環境衛生センター）

次回開催日時

次回開催場所

平成23年12月5日（月）15:00～

秋葉3階会議室A